



抄本

特別
 15
 66.73
 123
 早稲田大学図書館



安永七戌

亥新得

二十七



祝書

はる夜

の文

去る此書は史ふりなり初る一よ

ふりしるすの依後と書きし年

希声

後工を十日ふしむの三書ありて

徹中

各賀

及るめやあのもるまもとさうり味

文里

はるはち日連工あんの初書は

諺夕

何とも書あしきふれ書るれ

徹中

おむりやと午ねの馬帽子通りけり

玉二

もるも中抜き校の川さきも

月持

さ川さきさきの新成りれあもあ

一が

くひ 影中いふもと ぬるまのくひ 希少

ま林も 伝のよ〜〜 又 伝一 伝一

法那一統の 考伝と 伝一 伝一

十 考 考 考 考 考 考 考 考 考 考

ゆれ 二 八の 二 八の 二 八の 二 八の

と 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

積う 尔 尔 の 戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸 戸 彦南

あ〜〜 考 伝 の 二 八 の 二 八

あ〜〜

くひ 展 展 展 展 展 展 展 展 展 展 吟々

ま 考 考 の 考 考 の 考 考 の 考 考

ま の 考 考 の 考 考 の 考 考

ま 考 考 の 考 考 の 考 考 の 考 考 可 狂

酉

船と棹まきとほりあはさし

よも—あまのほのまき

里行船くさしあはさし

あけし

吞眞珠

吟

群と舟ぬりまきあはさし

こころの舟と舟とあはさし

のね

群と舟ぬりまきあはさし

小文

膏をくさせ、店の名えり

海夕

群と舟ぬりまきあはさし

月松

たふ—あまのほのまき

微中

くさしあまのほのまき

希少

月と舟ぬりまきあはさし

度南

村雨と舟ぬりまきあはさし

一歩

舟と舟ぬりまきあはさし

玉こ

あふふらののはさくきりしちれ 又

ニセくてもあふらのぬま

せふく

かみよのあふりしにハハの
油川ちりて四角の船の丸柱
あふりも船の丸柱の丸柱
あふりも船の丸柱の丸柱

はむと留るとあふりの丸柱
あふりも船の丸柱の丸柱
あふりも船の丸柱の丸柱
あふりも船の丸柱の丸柱
あふりも船の丸柱の丸柱

一の柱

あふりも船の丸柱の丸柱

あふりも船の丸柱の丸柱

糸橋治板

